

【経済政策】 瀧澤 弘和 ゼミ



演習テーマ： ゲーム理論, 行動経済学, 経済政策論, プレゼンテーションとディスカッション

<ゼミ紹介>

このゼミでの活動は、以下の3つにまとめられます。

1. ゲーム理論, 行動経済学, 実験経済学の学習

このゼミに応募する多数の学生さんの興味はゲーム理論です。したがってゼミを通して、最低限「ゲーム理論は学習した」と言えるようなゼミを運営することを基本にします。

2. プレゼンテーションとディスカッション

2年生と3年生を合同して5~6名のグループを形成し、特定の課題図書とテーマをもとにした、あるいは精読に基づいたプレゼンテーションを行ってもらい、皆でディスカッションします。年に3~4回ほど行います。

課題図書とテーマはゼミ生と相談して決定しますが、昨年度の例として1つあげると、セイラー&サンスティーン著『実践行動経済学』(日経BP社)を課題図書とし、著者たちが何を述べているのかをまとめてもらうかたちで発表とディスカッションを行いました。

3. 社会人との対話集会

社会人との対話集会とは、ビジネスの第一線で活躍している方々をお招きして一緒に議論するもので、開催は不定期です。また、「後輩たちの相談にのりたい」とのことで本ゼミOBからも2名(メーカー, コンサルタント)が話の場を設けてくれました。

ゼミのモットーは「謙虚、勤勉、独創」です！また、楽しく学び笑顔がたえない学びの場をつくることを重視しています。

<活動内容>

【2年次】

前期

1. ゲーム理論のテキストを輪読し、ゲーム理論の基礎を学ぶ

一昨年度は私のレジュメを基にして進め、天谷研一著『図解で学ぶゲーム理論入門』(日本能率協会マネジメントセンター)を副読本としました。

2. プレゼンテーションとディスカッション

課題図書とテーマを指定した上で、そのテーマについて、5—6名のグループでプレゼンテーションをしてもらい、ディスカッションします。グループは3年次の学生と組んで形成します。昨年度は3回実施しました。

上記の他の例としては、ノーベル経済学賞を受賞したアンガス・ディートンについて、著書やウェブページを参考に発表してもらいました。

8～9月頃

秋からの授業へ向けた意思統一のミーティング(3年生・4年生との合同調査旅行)

2～3月頃

春合宿(3年次の目標設定等の打ち合わせ、映画鑑賞を通じたリーダーシップについての討論等)

【3年次】

前期

1. ゲーム理論の応用書の輪読

一昨年は、青木昌彦・奥野正寛『経済システムの比較制度分析』(東洋経済新報社)を輪読しました。これは、ゲーム理論の応用がもっとも進んでいる「組織と契約の経済理論」を、日米の経済システムの比較分析に応用する内容の本です。

2. プレゼンテーションとディスカッション

演習1のところで述べたように、プレゼンテーションは、演習1と演習2の受講生が5—6名のグループを組んで行うこととなります。例も演習1の項目であげた通りです。

8～9月頃

夏合同調査旅行

学内プレゼンテーション大会に参加する場合には、その内容の検討を行います。

後期

1. ゲーム理論の応用書の輪読

2. 2年生と合同でのプレゼンテーションとディスカッション

3. 学内プレゼン大会への参加(希望に応じて)

【4年次】

前期

夏休み前に説明会を行い、戸田山和久著『論文の教室』(NHK出版)にしたがって、論文執筆の基本的なことを説明する。

夏休み中に、関心のある分野の書籍を多数読んでもらい、9月からの授業に備えている。

後期

9月以降の授業は、毎回、進捗報告と課題解決に当てられます。

執筆するテーマは学生の自由としています。随時顔合わせして、卒論のテーマについて論じます。

3月頃

執筆した演習論文の発表会(OB・OGも参加)、例年3月第一土曜日を予定しています。

<ゼミ生への要望>

グループごとで構わないので、ゼミをサークルのように感じて、自発的な問題意識に基づく自主的な勉強会(サブゼミ)を立ち上げるような意欲を持って欲しいと思っています。